

城端線開通 120 年記念連続講座

『城端線は何を変えたのか』開催一覧

1. 「城端線は秘密がいっぱい!!」(7月9日、散居村ミュージアム)
講師：木本尚志氏(富山県呉西地区公共交通再生研究会 会員)
城端線の歴史には、さまざまなロマンが込められています。“知られざる秘密”を存分に紹介しました。
2. 「明治人は鉄路に憧れた」(7月23日、散居村ミュージアム)
講師：草卓人氏(鉄道史研究家) 廣瀬直樹氏(氷見市立博物館主任学芸員)
明治時代、水運から鉄道への物流の大転換がどのように起きたか、なぜ砺波地方に県内初の鉄道ができたか、などについて考えました。
3. 「となみ野の産業革命」(8月12日、散居村ミュージアム)
講師：竹島慎二氏(富山近代史研究会 会長)
となみ野を大きく変えた城端線の開通を、世界史、日本史的な視点から考え、その意義を探りました。
4. 「人が動いた、地域が変わった」(9月16日、福野文化創造センターヘリオス)
講師：西野真夫氏(砺波散村地域研究所所員)、中川正人氏(城端・氷見線活性化推進協議会事務局、高岡市総合交通課地域交通係長)
鉄道の機能が、物流から人の「高速中距離輸送」「近距離大量輸送」に変わってきた現在、地方交通機関にどのような役割が求められるのか。城端線沿線の人口動態や将来予想を踏まえて、考えました。
5. バスハイク「城端線をもっと知ろう」(10月15日、城端線・加越線沿線一円)
第1～4回の講座で学んだ城端線、旧加越線の歴史と現在を、実際に見て回りました。新たな発見がたくさんありました。
6. シンポジウム「どこへ行く となみ野」(11月12日、散居村ミュージアム)
基調講演:吉田千秋氏(ひたちなか海浜鉄道社長)
連続講座の講師の皆さんとともに講座を振り返り、城端線によって、となみ野はどう変わったか、未来のとなみ野の姿をどのように描いていくか、について意見を交わします。

※各講座の録画、録音、資料などは、「となみ野 JP」(<http://tonamino.jp/shiru/120.html>)にアップしてあります。